

2020年
教室だより
12月号



公文式
本市場教室・横割教室
ゆきこくもん 検索
<http://www.yukiko-kumon.com>

公文式本市場教室 火3時~7時 木2時30分~6時30分
TEL 61-4936(上平方)
横割教室 月・水3時~7時 携帯090-2260-0671
Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com
携帯FAX:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp
指導者:新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

【公文式は「働く姿勢」に通じる力を育てる】②

前回から公文式が育む力についてシリーズでお伝えしています。「公文式を導入している中学校」と、「公文式や他の民間教育を導入していない中学校」を対象にした研究では、学校の授業内容の習熟度を測る「学習習熟度」のテストで、中1の入学時点では公文式を導入していない中学校のほうが高かった得点も、中2・中3と上がるにつれて、公文式を導入している中学校のほうが上回るようになりました。「学習習熟度」の他にも、「処理力」「思考力」「修正力」という3つの能力において、伸びを示す結果が出たのです。そしてそれらの力は将来、子どもが大きくなった時に「働く姿勢」にも通じると共同研究者から評価されました。今回からこの3つの能力を1つずつ解説します。

1つ目の「処理力」とは、作業できる量とスピード、一定時間継続して作業ができるようになる力のことで、公文式の学習を通じてこれらが向上することがわかりました。共同研究者によると、この「処理力」は、「多くの作業を集中して着実に処理する姿勢」につながり、それは、将来仕事を遂行する場面で、仕事に対する「熱心さ」や「仕事への情熱」などにもつながっていくとのこと。

今回は2つ目の「思考力」についてお伝えします。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“「自習」こそが勉強の基本”

公文式でいうところの「自習」とは、自ら進んで勉強し、自力で問題を解くばかりではなく、その答えが正しいかどうかをチェックして、誤りがあれば自分で訂正できることまでを含めたものです。

よく保護者の方は「この子は言われないと勉強しない」と言われますが、自習ができるようにするための最初のステップは「自分でらくにできる」という経験を持たせることです。

公文式は学年相当に関係なく「自力でできる」ところを学習するので、子どもは「やればできる」という喜びを味わうことができます。

「できる」ことを積み重ねると自信がついてきて、自ら学ぶ姿勢が身についてきます。らくにできて楽しいから「次にどんな新しいことがあるのだろう、早く知りたい」と思うのです。

やさしいところを集中して必要なだけ十分に学習することで、自習で進んでいくための土台をがっちり固めるのです。

December 12 2020						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	*28日~31日冬休み	

本市場教室日□
横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

12月分の会費引き落としは11月30日(月)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

コロナ禍で密を避け、ソーシャルディスタンスさせていますことご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

子どもに疑問を持たせる

小学生に上がる前の小さい子どもは、何でも疑問に持ち尋ねます。

「ねえ、あれ、なあに？」 「〇〇ってなあに？」 「どうして〇〇は、□□なの？」

親も大人も初めは喜んで答えますが、これが、四六時中続くと、だんだん面倒になり、つつい軽くあしらったり、適当な答えをして、その場を逃れてしまいがちです。そうした子どもも、小学校に入ると、少し質問がレベルアップしてきますが、いつしか気づくと、だんだんと質問をしなくなってしまうものです。自分でも考えるようになる、調べられるようになる、という面がないわけではありませんが、多くは、かつて真面目に答えてもらえなかった“親（大人）へのあきらめ”です。その証拠に、小学低学年生は、学校の先生には何でも疑問をぶつけます。家庭では、そんな時期こそ、積極的に子どもたちに語りかけましょう。本当は、いろいろなことを聞きたいのです。疑問が山ほどあるのです。親や大人でも答えられないような、難問もたくさん抱えているのです。大人が知識をひけらかすわけではありません。子どもに疑問を持たせるのです。当たり前と思わず、いろいろ分からないことがある、不思議なことがある、知らないことがある、ということを実感させるのです。「すごいでしょ、これ…」と少し大げさくらいに驚きを見せることでも、子どもの関心を引きまします。「こんな大きな木も、もとは小さな種だったんだよ…」そう、語りかけることもできます。

子どもが話しに乗って来て、興味を持とうが持つまいが、親や大人は、子どもに刺激を与え続けることが大切です。どこかで子どもの興味にヒットし、それをふくらませるかも知れません。つまり、大人にとっても、当たり前のことを当たり前と思わない、物ごとを客観的に見る態度が必要なのです。

最近ではさまざまな便利なものがあります。パソコンや携帯電話も当たり前の世の中になりました。子どもにとっては、そうした文明の利器も疑問だらけのはずです。大人はそうした疑問すら思わない、当たり前に使っているものであっても、子どもにとっては新鮮で、不思議だらけなのです。もちろん自然や宇宙のことも分からないことだらけでしょう。

そうした疑問をふくらませてあげてください。質問されて答えられなくなってもいいのです。子どもの疑問は、そうしたものばかりかも知れません。知ったかぶりをしないで、一緒に調べよう…、という態度も必要です。

ちょっとした大人のひと言が、子どもに疑問を持たせ、いろいろなことに興味や関心を抱かせます。それが、『ものを考える』ことにつながっていくのです。

コロナウィルスが蔓延（まんえん）しています

教室でのお願い

教室へ来る前に家で体温を測りましょう！

体温が37.5℃以下なら大丈夫です。体温がそれ以上の人は公文をお休みして在宅学習をお願いします。

教室へ入るときは、必ず「**マスク**」をしてください。ない人は申し出ただければマスクを差し上げます。

コロナ禍対策でソーシャルディスタンスの為、座れる人員が限られています。

公文のプリントが終了した人は、次の人に席を譲ってあげましょう。

宿題は席に余裕があればやってもいいですが、密となるような状態なら次にやる人の為にも帰っておうちでやってください。最長でも1時間30分、だらだらとやっている人は直ぐ退席してもらいます。

①はきものはきちんとそろえよう！ ②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！

③もちものには なまえ をかきましよう！

④でんわをかりたら かならず でんわ代10えんいれてください！

冬休みの宿題は

基本的に 5 日分お渡しする予定です。

年末年始のあわただしい中での学習習慣はくずれやすくなります。

宿題のやり残しは、お子さまの学習意欲の減退につながります。

冬休みの学習を、ご家庭でお子さまと話し合ってくださいようお願いします。

宿題の増減についてご希望がございましたら、最終学習日までにお申し出ください。

来年は 横割教室は**4日（月）** 本市場教室は**5日（火）** から始めます。

横割教室の駐車場を探しています。

週1回（月曜のみ、月が祝日の場合は水）

3時～6時の3時間のみ